

グローバル・シティズンシップを育成する
小学校社会科・産業学習の授業開発

—第5学年・農業単元「富山で行われている新しい農業」の場合—

奥田 貴一 岡崎 誠司

グローバル・シティズンシップを育成する 小学校社会科・産業学習の授業開発

—第5学年・農業単元「富山で行われている新しい農業」の場合—

奥田 貴一¹ 岡崎 誠司²

Development of the Lesson for the Social Studies and Industrial Learning at
Elementary School Global Citizenship
-The Agricultural Unit “New farming being done in Toyama” for 5th
Graders-

Kiichi OKUDA Seiji OKAZAKI

摘要

本研究の目的は、急速に拡大するグローバル化において、社会諸科学の研究成果を生かした「基本的概念」を習得し、話し合いを通して「批判的思考力」や「異なる考えの寛容」の能力を育成し、「合意可能な意思決定」ができる力をつけることで、「グローバル・シティズンシップ」を育成することを目指した小学校社会科の産業学習の授業を開発することである。この目的を達成するため、本研究では小学校第5学年農業単元において子供の獲得する知識・概念・価値を構造として示し、さらにそれに対応する形で問いの構造を示した。そうして実験授業を実施し、分析した。その結果以下2点の成果を得た。1点目の成果は、これからの市民的資質として、「グローバル・シティズンシップ」を育成するために、その構成要素の中核として「合意可能な意思決定」を定義し、単元を開発したことである。2点目の成果は、「グローバル・シティズンシップ」の育成を目指すうえで、適切な授業方略として、「グローバル・シティズンシップ型」という新しい授業方略を開発して実験授業を行い、実験授業前後における児童の変容を示すことによって、その有用性を示すことができたことである。

キーワード : グローバル・シティズンシップ、合意可能な意思決定、単元開発、知識・概念の構造、問いの構造

Keywords : Global Citizenship, Agreeable Making, Unit Development, Structure of Knowledge and Concept, Structure of Question

1 研究の目的

本研究の目的は、急速に拡大するグローバル化において、子供が農業経済学や環境経済学などの社会諸科学の研究成果を生かした「基本的概念」を習得し、話し合いを通して「批判的思考力」や「異なる考えの寛容」の能力を育成し、「合意可能な意思決定」ができる力をつけることで、「グローバル・シティズンシップ」を育成することを目指した小学校社会科の産業学習の授業開発をすることである。

2 研究の方法

本研究は以下の手順で実施される。

(1) 市民的資質の中核と捉えた「合意可能な意思決定」の定義をする。そのうえで、「合意可能な意思決定」

が市民的資質においてどのような位置にあるのかを示していく。

(2) 「グローバル・シティズンシップ」とは何かについて定義する。そのうえでこれまで実践されてきた「グローバル化」を扱った授業実践を分析し、問題点を明らかにする。

(3) 小学校で使用されている複数の教科書を研究対象として、「グローバル・シティズンシップ」を育成する観点からみた問題点を指摘する。

(4) 授業方略の観点から「グローバル化」についての授業実践を分析することで、「グローバル・シティズンシップ」を育成する観点からみた問題点を指摘し、授業方略を開発する。

(5) 「グローバル・シティズンシップ」を育成するために、「農業」を取り扱った授業開発を行い、実践した結果を基に、開発した単元の成果と課題を明らかにする。

¹ 射水市立太閤山小学校 ² 富山大学人間発達科学部

3 市民的資質とは何か

森分孝治の考える「市民的資質」は構造化されているため、授業を行う者が何を教えるか、どこまで教えるかが明確になっており分かりやすい¹。そのため、現場の教師でも「市民的資質」ならば意識をしやすくと考える。森分の考える「市民的資質」を図にしたものが図1である。そこで、本研究でも森分の考える「市民的資質」に示唆を受け、研究を進めることにする。

ただし、森分の考える「市民的資質」には2つ課題がある。1つ目は、「市民的資質」を育成するための段階は示されているが、各段階の授業のイメージがしにくいという点である。2つ目は「市民的資質」が唱えられた時代と現代とでは大きく社会の様子が違っている点である。これまでは、合理的意思決定は市民的行動へ至るプロセスと捉えられてきた。しかし、21世紀に入り、グローバル化する社会を生きていく子供たちは、これまで以上に異質な文化や考え方を尊重していかなければならなくなるだろうし、他者との差異を寛容に受け入れていかなければならない。このように、グローバル化され様々な人々と暮らしたり、仕事をしたり、話し合っって何か決めたりしていかなければならなくなる社会の中で必要とされる力が「合意可能な意思決定」だと捉える。(後述)つまり、森分の「価値的知識・判断力」までを「市民的資質」と捉えるより、社会科として学ぶ範囲を広げ、「合意可能な意思決定」までを「市民的資質」として育成することがこれからの社会科で求められるものであると考える。それを示したものが図2である。

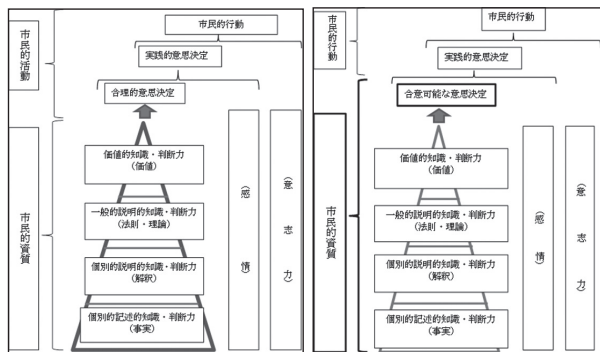


図1 森分孝治の考える「市民的資質」の構造
図2 筆者の考える「市民的資質」の構造

4 グローバル化とは何か

(1) グローバル化の定義とこれまでの実践の検討

これまで、「グローバル化」を研究者たちはどのように捉えているかをみると様々な定義があることが分かる。福田正弘はグローバル化について、「世界の一体化」と捉えている²。また、森田真樹は、グローバル化を「社会科教育関係者が参考にするであろう政治、経済、社会、文化、哲学・思想などの諸領域に及び、「グローバル・スタディーズ」とよばれる領域まで登場するようになっ

ているとしている³。上条勇は、グローバル化を「世界の市場経済化・自由化」と捉えている⁴。まとめると、「グローバル化」とは、世界の一体化と捉えたり、政治、経済、社会、文化、哲学・思想など諸現象にわたって取り上げられたりするものであるといえる。つまり、何を「グローバル化」として捉えるかという視点が研究者によってそれぞれ違うため、社会認識や市民的資質の育成の中核を担う社会科として何を「グローバル化」に関わる諸現象として教えるかということが定まっていけないといえる。

そこで、グローバル化について統一的な定義を試みたスティーガーの定義⁵を基に以下のようにグローバル化を定義することにする。

グローバル化とは、経済、政治、文化、エコロジーの4側面が互いに影響し合うもの

実際の社会を考えてみても、複数の側面からの関わりで産業は行われているといえる。そのため、「グローバル化」を1つの側面から取り上げて説明するよりも、複数の側面から説明する方がより現実社会を表していると考えられる。それを図にしたものが図3である。

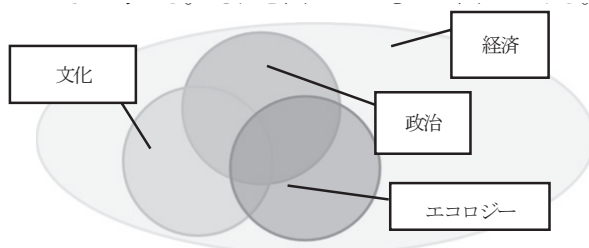


図3 筆者のグローバル化の捉え方

(2) グローバル・シティズンシップの定義と観点別目標

これからの社会科で子供たちに身に付けさせていきたい資質として「グローバル・シティズンシップ」を提唱する。その目標を、ユネスコや日本グローバル教育学会顧問、魚住忠久の「地球市民教育」の定義⁶を参考に、以下のように定義した。

学習者が、国家の枠組みを超えたもの、人、技術など様々な資源の流通を経済・政治・文化・エコロジーの4つの側面から明らかにし、自ら考え行動する力を身に付けることで、グローバル化した社会を生きぬくために他者と合意可能な意思決定ができる資質・能力を身に付けること

なぜ「グローバル・シティズンシップ」を提唱したかについて説明する。これまで小学校社会科では学習指導要領の目標に「国際化」が大きく掲げられているにも関わらずそれとは逆のこと、小原⁷や森分⁸が指摘するように「ナショナル」なことを学んでいるといえる。これまでの社会科は、「ナショナル」なことを学び、理解型⁹の授業を行うことで特定の価値観を注入することになる態度主義に陥っていた。しかし、21世紀に入り、「将来の予測が困難な複雑で変化の激しい社会」¹⁰に入った今、

これまでの目標や授業方略でそのような社会に対応できる子供たちを育成できるとはいえない。そこで、筆者が提唱する「グローバル・シティズンシップ」の目標を、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点から明らかにしていく。

まず、「知識・技能」の観点からその目標を示す。現在のようにグローバル化した社会では、自国中心の狭い視野で事象を見ていくのでは通用しなくなってきている。そこで、広い視野をもって様々な事象をみていく力を身に付ける必要がある。そのためには社会に関する様々な事象について、なぜそのようなことが起こり、そのような結果になったのかという因果関係を経済や政治、エコロジー、文化の4つの側面から明らかにすることが必要である。そうすることで、基本的概念を理解させることができる。また、その基本的概念を利用することで、一般論を導き出したり、考えを見直したりする力を育成することができる。

また、社会科として、情報収集力も必要である。教師がいつも資料を用意して教えようとしても情報収集力は身に付かない。それどころかある一定の価値観を押しつけることになる。それでは、これまでのナショナル・シティズンシップと変わらない。基本的概念を獲得するためには、子供自らが様々な情報源を利用して情報を集めてこそ情報収集力が身に付くのではないか。したがって、「知識・技能」の観点をまとめると以下のような目標になる。

- ・ 社会に関する様々な事象について因果関係や相関関係を分析することで、科学的な見方や考え方を育成し、基本的概念を理解し、それを利用して一般論を導いたり、考えたことを活用したり、見直したりする力を身に付ける。 【基本的概念を把握する力】
- ・ 社会に関する様々な事象について、あらゆる情報源(本、テレビ、ラジオ、インターネット、インタビュー、見学など)を利用して情報を集める力を身に付ける。 【情報収集力】

次に「思考・判断・表現」の観点からその目標を示す。まず、求められる力が批判的思考力である。これまでの社会科は社会の構造や仕組みを子供たちに認識させることができないとの批判がある。その要因はある情報が本当に正しいのかと批判的に分析・吟味する力を育成してこなかったからであろう。批判的思考力を育成することで、事象を客観的に認識し、事象を正確に理解する力が育成できる。そして、意思決定力も同時に求められる力であろう。現実の社会では、様々な選択肢の中から、ある目的を達成するために決断しなければならないことがほとんどである。そのときに必要となる力が、事実を正確に理解し、考えられる選択肢の中からより望ましいと判断する力である。この「批判的思考力」と「意思決定力」で育成できる様々な事象が複雑に絡み合っ

ている中から事象を客観的に認識し、正確に理解し、より望ましいと判断できるものを選ぶ力が、現在のグローバル化した社会では不可欠な力であり、それを身に付けることが求められている。また、批判的思考力や意思決定力を育成するためにはコミュニケーション力が必要になる。2つの力の育成は一人ではできない。複数の人物の考えを聞き合いながら練り上がっていくものである。そのような観点からもコミュニケーション力を育成することが必要になる。

したがって「思考・判断・表現」の観点をまとめると以下のような目標になる。

- ・ 情報を分析・吟味し、客観的に把握して、事象を正確に理解する力を身に付ける。 【批判的思考力】
- ・ 目的・目標を達成するために、複数の案の中からより望ましいと判断できるものを選択・決定できる力を身に付ける。 【意思決定力】
- ・ 話し合い、討論、作文、新聞などの形式を用いて、自分の考えを表現する力を身に付ける。 【コミュニケーション力】

最後に「主体的に学習に取り組む態度」の観点からその目標について示す。まず、興味・関心である。これはこれまで言われてきたように、学習に取り組む姿勢である。子供たちが様々な事象が存在する社会の一員として、いろいろなことをもっと知りたい、調べてみたいという気持ちがなければ、どんなに基本的概念を獲得させようとしても、情報収集力を育成しようとしても、批判的にものごとを判断させようとしても、意思決定させようとしても難しい。さらに、グローバル・シティズンシップを育成するのに必要だと考える態度が、異なる考えを容受することである。世界には、様々な文化、思想がある。自分の考えが絶対とは限らない。相手には相手なりの考えがある。グローバル化した社会では、様々な文化・思想をもった人々が関わり合うことになる。そのような社会で、他人の考えを否定するのではなく、それを容受し、そこから学ぶという姿勢が大切になってくるのではない。

したがって、「主体的に学習に取り組む態度」の観点をまとめると以下のような目標になる。

- ・ 「様々な事象が存在する社会」の一員として、いろいろなことをもっと知りたい、調べてみたいという気持ちを育てる。 【興味・関心】
- ・ 他者の考えの様々な要素を自分にとっても価値があると認め、そこから学ぼうとする気持ちを育てる。 【異なる考えの寛容】

以上「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点の上位に位置するものが「合意可能な意思決定」である。グローバル化した社会では誰もが合理的に物事を考えて行動しているわけではない。合理的に考えれば、そのようなことはしないだろうと思われることを行う場合もある。合理的に考えれ

ばAがよいが、様々な状況を理解し、熟考した上で合理的ではないBの行動をとる。このようなことはグローバル化した社会ではありうることである。

以上のことから「合意可能な意思決定」を以下のように定義する。

様々な状況を理解し、熟考した上で判断する合理的意思決定を含んだ広い範囲の意思決定する力

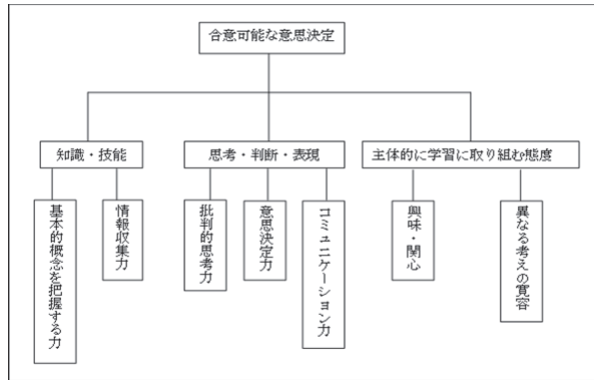


図4 グローバル・シティズンシップ育成の観点別目標の関係図

(3) グローバル・シティズンシップを育成する方略

「グローバル・シティズンシップ」の目標である「合意可能な意思決定」を育成するために特に重要だと考えるのが、「基本的な概念を把握する力」「批判的思考力」「異なる考えの寛容」の3つである。それぞれを育成するには、どのような方略がよいかを説明する。

まず、「基本的な概念を把握する力」を育成するための授業方略について説明する。その方略はこれまで行われてきた「説明型」¹¹の授業方略が参考になるだろう。「説明型」の授業は、子供たちに「なぜ」と問いかけて、原因を明らかにし、原因となる事象に「どうなるか」と問いかけて、結果を予測する授業である。つまり、説明を通して理論を獲得する学習方略である。理論とは、より多くの事象に当てはまるであろう知識のこと、つまり、基本的な概念であり、それを獲得できる方略が「説明型」である。

しかし、説明型の授業方略だけでは、従来の学習と変わりが無い。そこで、「グローバル・シティズンシップ」では、従来の説明型の授業では目指していなかった価値判断にまで踏み込んだ学習をすることにしたい。そのときに育成したいのが「異なる考えの寛容」と「批判的思考力」を身に付けることである。それを身に付けるための方略としては、対立する両者の認識の違いを明確にする討論（話し合い）が有効であろう。そして、討論（話し合い）を進める中で「批判的思考力」が育成され、話し合いが深まる中で両者が歩み寄りを見せ、どこかで合意点を見つけることになる。この「合意点」を見つけることが「異なる考えを寛容」に受け止めたことになり、異なる考えの中に価値を見だし、そこから学んだことになる。価値判断を明確にする方法として、トゥールミ

ン図式¹²（結論を支える根拠を「データ」と「理由付け」に分けて、「結論」「データ」「理由付け」の3つを議論の基本要素として図式化したもの）を用いることにする。以上の考えより、グローバル・シティズンシップを育成する学習過程を“吉村功太郎氏の「社会的合意形成」¹³、水山光春氏の「合意形成」¹⁴をめざす研究成果”を参考に次のように設定した。

＜グローバル・シティズンシップ育成の過程＞

- ① 対立する価値の認識
- ② 原因・背景の認識
— 経済・政治・文化・エコロジーの4側面から —
- ③ 価値を見つける討論（話し合い）
- ④ 合意点の評価

5 教科書記述にみる小学校産業学習の問題点

表1をご覧ください。これは、東京書籍の教科書（2015年）『新しい社会5上』の「米づくりのさかんな地域—山形県庄内平野—」の小单元について学習問題と学習内容にわけてまとめた表である。

まず、学習問題について説明する。ほとんどの学習場面に「どのような～」という学習問題が提示されている。この発問は理解型授業方略の特色であり、農家の立場に感情移入させることで、人々の工夫や努力を理解させるように構成されている。これでは特定の価値観を注入することになったり、人々の工夫や努力、願いを越えた社会の構造や仕組みを子供たちに認識させたりすることができない。これでは筆者が「グローバル・シティズンシップ」の能力として育成したい「自ら考え行動する力を身に付けることで、グローバル化した社会を生きぬくために他者と合意可能な意思決定ができる資質・能力」を身に付けることが難しいといえる。

次に、学習内容について説明をする。グローバル・シティズンシップを育成するために必要だと考える4側面（経済、政治、文化、エコロジー）について扱われるのは、「農家のかかえる問題とこれからの米づくり」の学習場面においてである。それは、農家の取り組みとして伝統的な方法でおいしい米を作る努力をしている後藤さんの紹介や、米でできたパンの紹介など「文化」の側面に当たることが学習されている。また、生産調整についての説明もあることから「政治」の側面に関しても学習されている。しかし、「経済」と「エコロジー」の側面からの学習はされないため、「グローバル・シティズンシップ」の能力を育成するためには不完全である。また、全9時間の小单元にも関わらず、1時間しか「グローバル・シティズンシップ」の能力を育成するための内容を扱っていないため、その時間だけで「グローバル・シティズンシップ」の能力を育成することには無理がある。

表1 東京書籍「米づくりのさかんな地域—山形県庄内平野—」の学習場面と学習問題、学習内容

学習場面	学習問題	経済	政治	文化	エコロ ジー	地形	気候	工夫 努力	流通
庄内平野をたずねて	庄内平野はどのようなところなのでしょう か。					○			
米づくりのさかんな庄内平野	庄内平野の米づくりに関する資料を見て話し 合い、学習問題をつくり、学習計画を立てま しょう。					○			
地形と気候を生かす	庄内平野は、どうして米づくりに適してい るのでしょうか。					○	○		
岡部さんの200日	岡部さんの米づくりにはどのようなふうや 努力があるのでしょうか。							○	
米づくりと地域の 協力	農家の人々は、よりよい米づくりのために、 どのように協力しているのでしょうか。							○	
庄内地方の農家を 支える人たち	農家の人たちは、だれがどのように支えてい るのでしょうか。							○	
おいしい米を全国に	庄内平野の米は、どのように消費者にとどけ られるのでしょうか。								○
農家のかかえる問題とこれか らの米づくり	農家の人たちはどのような問題をかかえてい るのでしょうか。		○	○					
「米づくり」辞典を つくる	米づくりがさかんな庄内平野の人たちのくふ うや努力について考え、まとめましょう。								

※ゴシックは、理解型授業方略の発問

※○をつけた部分は、その内容を学んでいることを示す。

※太枠の部分が「グローバル・シティズンシップ」の能力を育成するために必要だと考える4側面

6 「グローバル・シティズンシップ」を育成する単元『富山で行われている新しい農業』の開発

(1)授業開発の目的

提案する授業では、「グローバル・シティズンシップ」の目標である「合意可能な意思決定」の能力を子供たちに育成することを目指している。具体的に、どのような力が子供たちに身に付いたときに「合意可能な意思決定」の能力を育成できたと考えるのか。それは、図4「グローバル・シティズンシップ育成の観点別目標の関係図」に示した3観点、7項目が子供たちに身についたときである。その中でも、特に重視したいのが、「基本的概念を把握する力」、「批判的思考力」、「異なる考えの寛容」である。これらの力は、これまで行われてきた社会科学学習ではなかなか育成することができなかった力である。

(2)教材選択の理由

教材開発にあたって、富山県の廃棄物処理工場が行っているトマト作りを取り上げた。その理由は3つある。1つ目が、グローバル化の定義と富山県の廃棄物処理工場が行っているトマト作りが合致しているためである。具体的には、経済の側面に関しては、商品を販売していることはもちろん、販売価格と収穫量などから収益を計算することで儲けを考えることができるからである。政治の側面については、農林水産省が富山県この企業に18億円もの補助金を出していることから¹⁵、この事業は政府が推進している事業であることが分かるからであ

る。エコロジーの側面に関しては、この企業がごみを燃料に熱エネルギーや電気エネルギーを作っていることを学ぶことで、本来熱や電気エネルギーは化石燃料を使用しなければならないが、この企業の方法を利用すると地球上の化石燃料の節約につながるということが分かるからである。文化の側面については、ICTを活用して高品質なトマトを効率的、安定的に生産できることを学ぶことで、これまでの農業とは違った農業の方法があることが分かるからである。

2つ目は、国家の枠組みを超えた外国との関係についての内容を扱えるからである。具体的には、平成25年5月30日に安倍総理大臣と当時の農林水産大臣がオランダを訪問し、施設を見学したことを扱う。

3つ目は、合意困難な多面的な価値を含んだ問題を扱うことになるからである。具体的には、授業開発において子供たちに「もし、あなたが新しく農業を始めるとしたら、米とトマトのどちらを作りますか」と多面的な価値を含んだことを考えさせることとした。多面的な価値とは経済・政治・文化・エコロジーの4側面からの価値である。

(3)内容編成の論理

「合意可能な意思決定」の能力を育成するために重視したい3項目を学ぶ順番について説明する。「批判的思考力」や「異なる考えの寛容」の力を高めるためには、「基本的概念の把握」をする必要がある。基本的な概念を把握しないままの話し合いでは、根拠がないため議論が深まることは少ない。また、根拠がなければ、批判を

しても自分の考えや思いだけの感情論と言える。異なる考えを寛容に受け止めるにしても、「なぜ受け入れるのか」というところに根拠がなければ、何となく良いと思ったというようにやはり単なる感情論となるだろう。それでは、「批判的思考力」や「異なる考えの寛容」の力を高めたとはいえない。また、基本的概念を支えるためには、具体的事実を把握しなければならない。

次に、「批判的思考力」と「異なる考えの寛容」の関係について説明する。この二つの能力は話し合いをしていく中で形成されていくものであって、どちらが先ということはない。ある児童は、話を聞く中で、先に納得できる部分を見つけるかもしれない。またある児童は、話し合いの中で納得できない部分を先に見つけるかもしれない。そして、話し合いを続けていく中で「合意可能な意思決定」の能力を育成することができる。

(4)単元構成の論理

筆者が「合意可能な意思決定」の能力を育成するため特に重要だと考える力が「基本的な概念を把握する力」「批判的思考力」「異なる考えの寛容」の3つの力である。それを獲得するための学習過程は前述の「グローバル・シティズンシップ育成の過程」である。

第1次は、対立する価値の認識の過程である。子供た

ちに、合意困難な論争問題や多面的な価値を含んだ問題を提示する。第2次は、原因・背景の認識の過程である。この過程では、「合意可能な意思決定」の能力を育成するために対立する価値についての原因・背景を学び、基本的概念を獲得する場面である。具体的には、経済、政治、文化、エコロジーの4側面から米を作るのかトマトを作るのかを話し合いを通して、どちらを作るのかを決定するための原因や背景を認識させていくことになる。第3次は価値を見付ける討論（話し合い）の過程である。話し合いを通して、批判的思考力を育てる場面である。第2次で4側面より基本的な概念を獲得できた子供たちに、再び第1次で提示した課題を提示する。この段階で、事実と主張の論理的整合性を検証し、価値判断の構造を吟味するためにツールミン図式を用い、各自の主張を図式化させる。第4次は合意点の評価の過程である。もう一度ツールミン図式を用いて各自の考えを修正し、それを再提示する。そして、異なる主張にして納得できた部分（合意できた部分）、納得できなかった部分（合意できない部分）を確認する。つまり、異なる考えを寛容に受け止められたかを評価する場面である。このような論理で作った授業が「富山で行われている新しい農業」の学習である。

<単元名> 「富山で行われている新しい農業」

<単元目標>

【知識・技能】

○次世代施設園芸は、化石燃料を輸入しないので、他国の資源を節約することにつながる事が分かる。

【基本的概念を把握する力】

○次世代施設園芸は、収穫量が多いので単位量当たりの儲けが大きいことが分かる。

【基本的概念を把握する力】

○次世代施設園芸は、政府が推進している農業形態であることが分かる。

【基本的概念を把握する力】

○次世代施設園芸は、ICTを活用することで高品質な商品を効率的、安定的に生産できることが分かる。

【基本的概念を把握する力】

○田は、土砂災害を防ぐことや水を蓄えること、気温の調節をしていること、水をきれいにしていることなど多機能な環境に良い面があることが分かる。

【基本的概念を把握する力】

○米は、農協で買い上げられたり、個人で商売をして販売したりしていることが分かる。

【基本的概念を把握する力】

○政府は、補助金を半減させるなどの政策を行っていることから米を守ろうとはしていないことが分かる。

【基本的概念を把握する力】

○米づくりを行っている人々は、太陽の下で土を触りながら生産することにやりがいを感じる人がいることが分かる。

【基本的概念を把握する力】

○統計資料や文章資料、図や写真などの資料から読み取った情報をもとに、他者の考えと比較しつつ、自らの考えに活用する。

【情報収集力】

【思考・判断・表現】

○米かミニトマトのどちらを作るかについてツールミン図式を書き、自分と違う立場の考えの論理的整合性や価値判断の構造を検証する。

【批判的思考力】

○米かミニトマトのどちらを作るかについて、根拠をもって自分の意見をもつことができる。

【意思決定力】

○米かミニトマトのどちらを作るかについて、根拠をもって話し合いに参加し、自分の考えを表明できる。

【コミュニケーション力】

【主体的に学習に取り組む態度】

○富山県で行われている次世代型農業に関心をもち、意欲的に調べ、自らの考えをもととする。 【興味・関心】

○米かミニトマトのどちらを作るかについて、自分とは異なる考えを否定するのではなく、合意できる点を見つけ、自分の考えを修正したり、反映させたりする。 【異なる考えの寛容】

＜指導計画＞

- 第1次 対立する価値の認識・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
- 第2次 原因・背景の認識ー経済・政治・文化・エコロジーの4側面からー・・・・・・・・ 4時間
- 第3次 価値を見つける討論（話し合い）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
- 第4次 合意点の評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間

＜学習指導過程＞ ※ゴシックは中核発問、太枠は身に付けさせたい概念

過程	教師による主な発問・指示	教師と子供の活動	期待される子供の反応
第1次 対立する価値の認識	1 米作りを行っている農家の人たちの年齢層はどのような人たちでしたか。	T：発問する C：答える	<ul style="list-style-type: none"> ・60歳以上の高齢者が多い。 ・若い人たちが少ない。
	2 このままでは、農地はどのように考えられますか。	T：発問する C：答える	<ul style="list-style-type: none"> ・だれも米を作らなくなる田が増える。 ・荒れた田が多くなる。
	3 もし、あなたが30歳ぐらいで会社勤めをしており農地をもっていたらその土地をどうしますか。	T：発問する C：答える	<ul style="list-style-type: none"> ・田をやりたい人に土地を貸す。 ・田を売ってしまう。 ・がんばって米を作る
	4 今の日本は農業を始めたい人、農業に力を入れたい人にとってどんな状態だと言えますか。	T：発問する C：答える	<ul style="list-style-type: none"> ・農地があまっているのだから、農業をやりたい人にとっては安く土地を手に入れるチャンスである。
	5 現在、日本の農業総生産額が一番多いのはどの項目ですか。	T：発問する C：資料1を調べて答える	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜である。つまり、野菜は日本の農業において重要な地位を占め始めている。
	6 新しく農業を始めたいと思っている人はどんな農業を始めたいと思っていますか。	T：発問する C：資料2を調べて答える	<ul style="list-style-type: none"> ・7割以上が野菜、果樹、花卉などの施設園芸に取り組みたいと思っている。
	7 そこで、日本はどこに施設園芸を学びましたか。	T：発問する C：資料2を調べて答える	<ul style="list-style-type: none"> ・オランダは園芸先進国であるから、学ぶべき所を学んだ。
	8 施設園芸を行うのに必要なものはどんなものがありますか。	T：発問する C：資料2を調べて答える	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな温室が必要である。 ・温室をあたためるために石油などの化石燃料が必要である。 ・コストがかかる
	9 施設園芸の問題点は何ですか。	T：発問する C：答える	<ul style="list-style-type: none"> ・化石燃料を使わなければならないから環境に良くない。
	10 オランダから学んだスキルを日本型にアレンジした施設園芸を次世代施設園芸と言います。次世代施設園芸は日本のどこに広がっていますか。	T：発問する C：資料3を調べて答える	<ul style="list-style-type: none"> ・日本全国、全9カ所に広がっている。
	11 つまり、日本はどのような施設園芸が広がっていると言えますか。	T：発問する C：答える	<ul style="list-style-type: none"> ・オランダから施設園芸のスキルを学んだ農業が導入され、全国に広がっている。
	12 富山にも施設園芸を行っている場所があります。そこでは、何を作っていますか。	T：発問する C：資料3を調べて答える	<ul style="list-style-type: none"> ・トマト、トルコギキョウを栽培している。
	13 もし、あなたが新しく農業を始めるとしたら、米とトマトのどちらを作りますか。	T：発問する C：各自のノートに考えを書く	<p>米を作る。米は日本が昔から作っていた食べ物だからだ。 トマトを作る。なぜなら、農業総産額が米を抜いてトップになっているからだ。</p>
第2次 原因・背景の認識 I エコロジーの側面から	14 富山県の施設園芸が行われている場所はどんな施設だと言えますか。	T：発問する C：資料4を調べて答える	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物焼却施設と書いてあるから、ごみを燃やす工場である。
	15 なぜ、ごみを燃やす工場がトマトを作っているのだろう。	T：発問する C：予想して答える	<ul style="list-style-type: none"> ・いらぬものを燃やしているのだから、石油を使わないから環境に良いのではないか。 ・石油を使わないで済むから、資源の節約につながる。 ・いらぬものを燃やして電気にかえられるからではないか。
	16 石油や石炭などを燃やし続けることでどんな問題が起こりますか。	T：発問する C：答える	<ul style="list-style-type: none"> ・二酸化炭素が増加し、熱が地表で吸収されて、地球の気温が上昇する。 ・つまり、化石燃料を燃やすことによって、二酸化炭素が地球上に増加し、地球温暖化の原因になる。

第2次 原因・背景の認識 I エコロジの側面から	17 化石燃料はどこからやってきますか。	T：発問する C：資料5を見て答える	<ul style="list-style-type: none"> 日本ではとれない。 外国から輸入している。
	18 どれくらい日本は化石燃料を輸入していますか。	T：発問する C：資料6を見て答える	<ul style="list-style-type: none"> 石油が99.6%
	19 もし、石油がなくなるとどうなりますか。	T：発問する C：答える	<ul style="list-style-type: none"> 車が動かせない。 暖房が使えない。 電気も作れない。
	20 もし、この施設を広めていくとするとどんなことが言えますか。	T：発問する。 C：答える。	化石燃料を輸入しないので、外国の資源を使わなくてよくなる。それは地球全体の資源を使わなくてよくなるということになり、環境にとってよいことである。
	21 現在、日本の発電所で一番多くの電気を発電しているのはどれですか。	T：発問する C：資料7を見て答える	<ul style="list-style-type: none"> 火力発電所である。
	22 火力発電所のエネルギーは何ですか。	T：発問する C：資料7を見て答える	<ul style="list-style-type: none"> 化石燃料
	23 この施設は、いらぬものを燃やした熱を利用しているということはどんなことが言えますか。	T：発問する C：答える	<ul style="list-style-type: none"> 外国の資源を使わない施設である。 石油を燃やさないので環境に良い施設である。
第2次 原因・背景の認識 II 経済の側面から	24 田が環境にいいことはどんなことがあるでしょうか。	T：発問する C：資料8を調べて答える	<ul style="list-style-type: none"> 黒部ダムとの40倍の水を蓄えている。 雨水を貯めて、土砂災害を防いでくれる。 水をきれいにしてくれる。 二酸化炭素を吸収したり、水を蒸発させたりして気温の調節してくれる。
	25 もし田がなくなったらどうなるでしょう。	T：発問する C：答える	<ul style="list-style-type: none"> 水が減る、土砂災害が起こるかもしれない、水が汚くなる、気温が上昇するかもしれない。
	26 田は環境にいいと言えますか。	T：発問する C：答える	田は様々な環境により機能がある。だから環境にいい。
	27 富山県ではどのような農業が行われていますか。	T：発問する C：資料9を調べて答える	<ul style="list-style-type: none"> 富山県はやさいの出荷量が全国47位である。 米の作付面積は第12位で、水田率は第1位である。 富山県は米づくりがさかんな県である。
第2次 原因・背景の認識 II 経済の側面から	28 なぜ、米づくりがさかんな富山県にトマト工場を作ったのだらう。	T：発問する C：予想して答える	<ul style="list-style-type: none"> トマトを作っていないから、作った方が儲かるから。
	29 兼業農家の高橋さんはどんな仕事をしていますか。	T：発問する C：資料10を見て答える	<ul style="list-style-type: none"> 月～金は会社に勤めている。 土日は休み、たまに残業がある。
	30 高橋さんはどのようにして、農業を行っていますか。	T：発問する C：資料10を見て答える	<ul style="list-style-type: none"> 土日が休みだから、その日に田の仕事をしています。
	31 高橋さんの給料はどのくらいですか。	T：発問する C：資料10を見て答える	<ul style="list-style-type: none"> サラリーマンの平均月収である約25万円くらいである。
	32 高橋さんは2015年、田の収入はどれだけありましたか。	T：発問する。 C：資料11を見て答える	40袋農協へ出荷した。一袋5750円なので、約23万円の収入である。60袋は知り合いなどに売った。それで約30万円の収入があった。
	33 支出はどれだけありましたか。	T：発問する C：資料11を見て答える	<ul style="list-style-type: none"> 草刈りの燃料が約1万円 肥料代が約4万円 苗代が約8万円 その他の支出が約10万円
	34 つまり、高橋さんの去年の儲けはどれだけですか。	T：発問する C：答える	<ul style="list-style-type: none"> 約20～25万円くらい。 つまりサラリーマンの平均月収くらいである。
	35 トマト工場ではどのように仕事をしていますか。	T：発問する C：資料12を調べて答える	<ul style="list-style-type: none"> 月～金は8:30～17:00までの勤務である。 土日は基本的には休みだが、月1回は出勤がある。
	36 トマト工場の収入はどれだけありますか。	T：発問する C：資料12を調べて答える。	<ul style="list-style-type: none"> 給料は約22万円、それに手当がつく。 給料は、高橋さんとほとんど変わらない。
	37 田とトマトの収穫量を10a当たりではそれぞれどれだけの収穫量がありますか。	T：発問する。 C：資料13を調べて答える。	<ul style="list-style-type: none"> 高橋さんの田は約6t。トマト工場は約17.5tの収穫がある。

<p>第2次 原因・背景の認識Ⅱ 経済の側面から</p>	<p>38 米やトマトを売ったときの収入はどちらが多いでしょう。</p>	<p>T：発問する C：資料10～資料13を調べ、計算して答える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 田は6tで、農協へ出荷すると、30kgが5750円であるから、$5750円 \times 200袋 = 1,150,000円$の儲けになる。 トマトは、一パック約150g入りをスーパーでは300円で売っている。だから、30kgでは60,000円の儲けが出る。そのうち、会社は10%を受け取るので6000円の儲けである。だから、$6000円 \times 600 = 3,600,000円$の儲けになる。 <p>つまり、トマト工場の方が儲かるといえる。</p>
<p>第2次 原因・背景の認識Ⅱ 政治の側面から</p>	<p>39 日本はどこから施設園芸のスキルを学んだのですか。</p> <p>40 富山にできたこのトマト工場に、政府はどれだけの補助金を出していますか。</p> <p>41 なぜ、政府は18億円もの補助金を出したのだろう。</p> <p>42 オランダの施設園芸では何を使っていますか。</p> <p>43 日本の農業でICTは使っていますか。</p> <p>44 政府はICTを使った農業をどのようにしていきたいと考えていると思いますか。</p> <p>45 富山のトマト工場では、ICTを使ってどんなことを行っていますか。</p> <p>46 高品質のトマトとは、どんなトマトのことだと考えますか。</p> <p>47 この会社が作るトマトと従来の方法で作られたトマトでは、栄養はどのように違いますか。</p> <p>48 政府は現在、米をどのようにしようとしていますか。</p> <p>49 政府は今後、農家に対してどのような政策を行っていくとしていますか。</p> <p>50 日本政府は米作り農家を守ろうとしていると言えますか。</p>	<p>T：発問する C：答える</p> <p>T：発問する C：答える</p> <p>T：発問する C：予想して答える</p> <p>T：発問する C：資料14を調べて答える</p> <p>T：発問する C：答える</p> <p>T：発問する C：答える</p> <p>T：発問する C：資料15を調べて答える</p> <p>T：発問する C：考えて答える。</p> <p>T：発問する C：資料16を調べて答える</p> <p>T：発問する C：答える</p> <p>C：資料17を読んで答える</p> <p>T：発問する。 C：答える</p>	<ul style="list-style-type: none"> オランダから学んだ。オランダは園芸先進国であるから。 約18億円。 米を作るより、トマトを作る方が儲かると思ったから。 日本にもオランダ農業のよさを生かせる部分があると考えたから。 ICTを活用している。 化石燃料を使っている。 ほとんど使っていない。しかし、機械は使っている。 <p>政府は、ICTを使った農業を広めたいと考えている。なぜなら、総理大臣が視察にいき、多額の補助金を出しているから。</p> <ul style="list-style-type: none"> 高品質の商品を作ることができる。 効率的・安定的に商品を作ることができる。 データを収集して、トマトを作っている。 大きさがそろっている。 栄養があるもの。 糖度が11と従来の約3倍である。 その他の栄養価も従来のミニトマトよりも数段高い数値である。 減反政策を進めている。 減反に応じた農家への補助金を1万5000円から7500円にしようとしている。 価格の補償部分をなくしようとしている。 平成30年度には減反政策を廃止しようとしている。 <p>言えない。なぜなら、トマト工場には18億円もの補助金を出しているのに、補助金を半減させて、補償部分をなくしようとしているから。</p>
<p>第2次 原因・背景の認識 文化の側面から</p>	<p>51 富山にあるトマト工場では、どのようなトマトを作っていましたか。</p> <p>52 ICTを活用することでよいことはどんなことですか。</p> <p>53 ICTを活用した農業は、日本で行うことは可能だと思いますか。</p> <p>54 なぜ、日本ではこれまでICTを活用した農業がほとんど行われなかったのだろう。</p>	<p>T：発問する C：資料15を調べて答える</p> <p>T：発問する C：答える</p> <p>T：発問する C：答える</p> <p>T：発問する C：予想して答える</p>	<p>高品質なトマトを、効率的、安定的に生産していた。ICTを活用した農業だった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 同じ品質の商品をたくさん作ることができる。 可能である。これまでは、ICTは工業で活用されていたが、それを農業で活用することは可能である。 農業にICTを使うという発想がなかった。

<p>第2次</p> <p>原因・背景の認識</p> <p>文化の側面から</p>	<p>55 これまでの学習した米を作っている農家はどのようにして米を育ててきましたか。</p> <p>56 脱サラをして農業を始めた人の思いを読んで、どのような思い出農業を始めたのか読み取りましょう。</p> <p>57 これまで農業に従事してきた人は、どのようなことをすることが農業だと感じていたのでしょうか。</p>	<p>T：発問する C：答える</p> <p>T：発問する C：資料18を読んで答える</p> <p>T：発問する C：答える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・土をみたり、天候をみたりすることが当たり前であった。 ・土作りを自分の手で行ってた。 ・地域の人や家族の手を借りて田植えや稲刈りをしてた。 ・田の様子を見て、草刈りや水の管理を行っていた。 ・勉強会を開いて、どうすればいい米がとれるかを話し合っていた。 ・一年中工夫や努力を重ねて米を収穫していた。 ・早朝の畑のすがすがしさを感じていた。 ・目一杯体を使って働いた後の充実感を味わっている。 ・自ら育てた農産物をいただくことの喜びを感じている。 <p>農業を行っている人にとっては、太陽の下で土を触って生産することにやりがいを感じている人もいます。</p>
<p>第3次</p> <p>価値を見付ける討論</p>	<p>58 もし、あなたが新しく農業を始めるとしたら、米とトマトのどちらを作りますか。ツールミン図式を書いて、話し合しましょう。</p>	<p>T：発問する C：ワークシートに ツールミン図式を書いて発表し、話し合う。</p>	<p><米を作る場合の例></p> <p>(環境の面より)</p> <p>D(data:事実) C(conclusion:結論)</p> <p>土砂災害を防いでくれるから 米を作る</p> <p>W(warrant: D→Cの理由付け)</p> <p>環境により機能がたくさんあるから</p> <p>(経済の面より)</p> <p>D C</p> <p>土地が余っているから 米を作る</p> <p>W</p> <p>安く土地を手に入れ、収入を増やせるから</p> <p>(政治の面より)</p> <p>D C</p> <p>減反政策が行われなくなるから 米を作る</p> <p>W</p> <p>米を作ることを制限されないの、生産量が上がるから</p> <p>(文化の面より)</p> <p>D C</p> <p>コンピュータを使わず自分の手で行うから 米を作る</p> <p>W</p> <p>手作業で行うことで、やりがいや満足感、達成感を感じることができるから</p>

<p>第3次 価値を見付ける討論</p>		<p><トマトを作る場合の例> (環境の面より)</p> <p>D ごみを燃やしてエネルギーを作るから</p> <p>C トマトを作る</p> <p>W 他国の資源を減らすことができるから</p> <p>(経済の面より)</p> <p>D 米を作るよりも儲かるから</p> <p>C トマトを作る</p> <p>W 儲かるものを作ることが、会社にとってはよいことであるから</p> <p>(政治の面より)</p> <p>D 政府が支援してくれているから</p> <p>C トマトを作る</p> <p>W 多額の補助金をもらうためには、政府の方針に則らなければならぬから</p> <p>(文化の面より)</p> <p>D ICTを活用することで同じような商品を作ることができるから</p> <p>C トマトを作る</p> <p>W 同品質の商品を消費者は求めているから</p>
<p>第4次 合意点の評価</p>	<p>59 これまでの話し合いから、自分とは違う立場の意見で、納得できる部分はどこですか。</p> <p>60 逆に、自分とは違う立場の意見で納得できない部分はどこですか。</p>	<p>T：発問する C：発表する。</p> <p>T：発問する C：発表する</p> <ul style="list-style-type: none"> 米を作る理由として、他国の化石燃料を消費することを押さえられるということには賛成である。 米を作る理由として、昔からの伝統を守ることには納得できる。 実際にトマトが儲かっているから、儲けを考えるとトマトを作るということに納得できる。 ICTを活用することで、高品質な商品を作ることができることに関してはその通りだと思う。 トマト工場はICTを活用できて簡単だと言っていたが、高齢者が簡単には使いこなせるとは思えない。 米は日本人の主食だと言っていたが、現在は様々な食文化が発達しており、パンも主食になりつつあるから。

〔資料〕

- 資料1 日本の農産物販売金額の内訳比較…一般社団法人日本施設園芸協会「次世代日本の施設園芸」、2015年、4頁
- 資料2 現場の課題・課題の取り組み…一般社団法人日本施設園芸協会「次世代施設園芸の全国展開～攻めの農業の旗艦～」
- 資料3 次世代施設園芸導入加速化支援事業実施地区…同上
- 資料4 廃棄物処理工場の概要…同上
- 資料5 主な輸入品の輸入相手国…東京書籍『新しい社会5下』、2015年、52頁
- 資料6 輸入量と国内生産量の割合…同上

- 資料 7 日本の発電所の割合…日本の再生可能エネルギーの現状< http://www.japanfs.org/ja/news/archives/news_id035081.html>
- 資料 8 水田のはたらき…日本標準『社会科資料集 5 年』、2016 年、51 頁
- 資料 9 全国野菜出荷ランキング…野菜ナビ< <http://www.yasainavi.com/graph/pref>>
作付けランキング…都道府県データランキング< http://uub.jp/prd/a/i_2.html>
水田率ランキング…富山県 HP「県のプロフィール（特色（産業）より抜粋< <http://www.pref.toyama.jp/gaiyou/tokusyoku3.html>>
- 資料 10 高橋さん（兼業農家）の作業日（2015 年）…高橋さんへのインタビューにより、筆者作成
- 資料 11 高橋さんの田における収入と支出…高橋さんへのインタビューにより、筆者作成
- 資料 12 ゴミ処理工場の労働条件…富山環境整備谷内さんへのインタビューにより、筆者作成
- 資料 13 10a あたりの収穫量（2015 年）…高橋さん、谷内さんへのインタビューより、筆者作成
- 資料 14 オランダの施設園芸と我が国の次世代施設園芸…一般社団法人日本施設園芸協会「次世代施設園芸の全国展開～攻めの農業の旗艦～」
- 資料 15 ICT 等を活用した高付加価値農業のパイロット実証事業（イメージ）…富山スマートアグリ次世代施設園芸拠点整備協議会『次世代施設園芸導入加速化支援事業富山拠点』
- 資料 16 フォレストフルティカのパンフレット…富山環境整備作成パンフレット
- 資料 17 補助金半減、減反廃止を伝える新聞…産経新聞、2013.11.3
- 資料 18 脱サラをした人の思い…古沢広祐 / 蕪栗沼ふゆみずたんぼプロジェクト / 村山邦彦 / 河名樋秀郎『環境と共生する「農」ミネルヴァ書房、2015 年

(5) 単元開発の成果と課題

① 基本的な概念を把握する力の分析

本単元で身に付けさせたい概念は指導案中の単元目標に挙げた 8 つである。この概念を学習する前の第 1 次と、基本的な概念の把握を終えた第 3 次とで比べ、子供たちが「基本的な概念」を用いて合意点を見つけたり合意できない点を見つけたりしているかで判断する。以下、実際に平成 28 年 7 月に射水市立太閤山小学校 5 年 3 組で実施した実験授業の分析である。

第 1 次の終わりに「もし、あなたが新しく農業を始めるとすると米とトマトのどちらを作りますか」と発問し、どちらを作るかとその理由を書かせた。その結果、学習する前にこの単元で身に付けさせたい「基本的な概念」をもっていた児童は 3 人（10%）であった。

次に、第 3 次の発問 58「もし、あなたが新しく農業を始めるとしたら、米とトマトのどちらを作りますか」に対してのツールミン図式の W（理由付け）の部分にどれだけ概念として考えられるものが書かれているかを集計したものが以下の表 3 である。

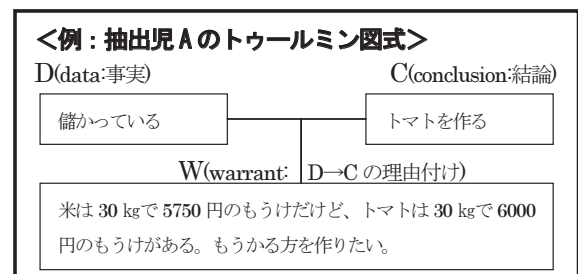
表 3 「もし、あなたが新しく農業を始めるとすると米とトマトのどちらを作りますか」の立場と理由の分類

	エコロジー	経済	政治	文化	4 側面以外
トマトを作る	8 人	2 人	0 人	4 人	1 人
米を作る	8 人	1 人	1 人	3 人	2 人

30 名の児童のツールミン図式の W（理由付け）の部分进行分析すると、30 人中 27 名が筆者の考える基本的概念であるエコロジー、経済、政治、文化の 4 側面のうちの一つ以上から考えを書くことができた。つまり、90%が基本的概念を把握することができたといえる。

A 児はトマトを作る理由として「儲かるから」としている。これは、基本的概念の経済の側面から考えた理由といえる。そのため、この A 児は表 2 においては、経済の側面から考えた理由でトマトを作る 2 人の部分に

あたる。（強調した部分）



② 批判的思考力の習得状況の分析

「批判的思考力」の習得率については、第 4 次に児童が書いた「合意できない点はどこか」について 4 側面からの反論を書いたのかで判断する。以下がまとめた表 4 である。

4 側面とそれ以外に分類すると、45 項目中 36 項目 4 が 4 側面に関するものであった。つまり、筆者が期待していた 4 側面での批判が 80%であったため、批判的思考力を高めることができたといえる。（※子供が納得できないとして書いた 1 文を 1 項目と呼ぶ。）

表 4 相手の考え方に納得できない部分の分類

	エコロジー	経済	政治	文化	4 側面以外
トマト派から米づくりの納得できない点	3	5	0	7	4
米派からトマト作りに納得できない点	9	0	3	9	5

※複数回答

<例：抽出児 A のノートより>

同じ 30 kg でトマトは米よりも儲けがあるので、なぜ米を作ろうと考えるのか。（経済の側面からの反論）

A 児の反論は、トマトを作る立場からトマトを作る方が儲かるのに、なぜ儲けが少ない米を作るのかという経済の側面からの反論を行っている。これは、表 4 に

いては、経済の側面から考えたトマト派から米づくりの納得できない点の5項目の中の1つにあたる。(強調した部分)

③ 「異なる考えの寛容」の習得状況の分析

最後に、「異なる考えへの寛容」の習得率については、第4次に児童が書いた「自分とは違う立場の考え方で納得ができる部分はどこか」について、4側面からの合意点を書いたかで判断する。以下がまとめた表5である。

表5 相手の考え方に納得できる部分の分類

	エコロジー	経済	政治	文化	4側面以外
トマト派から米づくりの納得できる点	21	1	0	7	2
米派からトマト作りに納得できる点	6	17	1	11	4

※複数回答

4側面とそれ以外に分類すると、70項目中64項目が4側面に関するものであった。つまり、筆者が期待していた4側面からの合意が91.4%であったため、この開発単位によって異なる考えを寛容に受け止める力をつけることができたといえる。(※子供が納得できるとして書いた1文を1項目と呼ぶ。)

A児の納得できるとした理由は、水不足や土砂災害を防いでくれる、空気をきれいにしてくれるというエコロジーの側面からである。これは、表5においては、エコロジーの側面から考えたトマト派から米づくりの納得できる点の21項目の中の1つにあたる。(強調した部分)

<抽出児Aのノートより>

田が水をためて、水不足を防いでくれていることは納得できる。そして、土砂災害を防いでくれるのはいいことだと思う。空気をきれいにしてくれるのはうれしいことだと思う。

(エコロジーの側面から納得できる部分)

以上のように、本研究の成果は、「グローバル・シティズンシップ」の目標である「合意可能な意思決定」の能力を育成するために特に重要だと考える3つの力(「基本的概念の把握」「批判的思考力」「異なる考えの寛容」)を育成するための単元を開発できたことである。

7 成果と課題

本研究の成果は、以下の2つである。第1は、これからの市民的資質として、「グローバル・シティズンシップ」を育成するために、その中核として「合意可能な意思決定」を定義し、単元を開発したことである。

第2は、「グローバル・シティズンシップ」の育成を目指すうえで、適切な授業方略として、「グローバル・

シティズンシップ型」という新しい授業方略を開発して実験授業を行い、実験授業前後における児童の変容を示すことによって、その有用性を示すことができたことである。

また、課題は以下の2つである。第1は、今回提示した開発単元は、筆者が勤務する小学校で自分のクラスでのみ実施した授業を修正したものである。

第2は、「グローバル・シティズンシップ」育成の過程を行ったのが本単元1つしかないことである。今後は、「グローバル・シティズンシップ」育成の過程がどのような産業学習でも適応できるかを検証する必要がある。

¹ 森分孝治「市民的資質育成における社会科教育—合理的意思決定—」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第13号、2001年。

² 社会認識教育学会編『新社会科教育学ハンドブック』明治図書、2012年。

³ 森田真樹「社会科教育研究におけるグローバル教育についての考察」日本社会科教育学会『社会科教育研究』第95号、2005年、80頁。

⁴ 上条勇『グローバリズムの幻影』梓出版社、2006年。

⁵ スティーガー『新版 グローバリゼーション』岩波書店、2010年。

⁶ 魚住忠久『共生の時代を拓く国際理解教育』黎明書房、2000年、64頁。

⁷ 小原友行「小・中学校社会科カリキュラムをどう変えるか〜ユニバーサル・スタンダードを求めて〜」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第20号、2008年。

⁸ 森分孝治『社会科授業構成の理論と方法』明治図書、1978年。

⁹ 「理解型」や「説明型」などの授業方略については、前掲7など多数の論文で使用されている。

¹⁰ 文部科学省教育課程企画特別部会論点整理、2015年8月26日HPより。

¹¹ 前掲9

¹² 社会認識教育学会編『新社会科教育学ハンドブック』明治図書、2012年。

¹³ 吉村功太郎「社会的合意形成をめざす社会科授業—小単元「脳死・臓器移植法と人権」を事例に—」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第13号、2003年、23頁。

¹⁴ 水山光春「合意形成」の視点を取り入れた社会科意思決定学習」全国社会科教育学会『社会科研究』第58号、2003年、17頁。

¹⁵ 株式会社富山環境整備、谷内さんへのインタビューによる。

(2017年8月30日受付)

(2017年10月4日受理)